



テープカットの様子

慶應義塾大学病院 1号館(新病院棟)が竣工

4月21日(土)、信濃町キャンパスにて、医学部開設100周年を記念して建設した慶應義塾大学病院1号館の竣工式が行われました。竣工式には、義塾関係者ならびに設計・施工関係者、来賓、招待者など330人以上が出席しました。最初に挨拶を行った長谷山彰毅院長は、慶應義塾大学・医学部を担う人材育成の場として発展することを期待を述べました。次に、天谷雅行学部長から挨拶があり、岩崎道平副学部長から新病院棟建設事業に関する説明ならびに募金活動報告がありました。引き続き北川雄光病院長から1号館の概要説明を行い、無事に竣工を迎えられたことに対する感謝の意と、慶應義塾大学病院のさらなる発展に向けた決意を述べました。

続いて、慶應義塾から設計担当者・施主者への感謝状が贈呈され、設計担当者・施主者からは記念品目録が慶應義塾に贈呈されました。竣工式の最後にはテープカットが行われました。竣工式の後は、引き続き1号館の内覧が行われました。

今回竣工した1号館には、旧病院棟から病院機能の大部分が移転し、2018年5月7日(月)に開院しました。



内覧会の様子(病室)



小児系外来中待合



内覧会の様子(手術室)



産科棟棟内ラウンジ



建物外観



発行所 三四会医学部新聞編集部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員に送料が含む(会費は含まず)
発行人 武田純三
毎月1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
外来診療時間 午前8時30分～午後12時
午後1時～午後6時(休診日)
電話 03-3353-1211(院内電話)



会が、3月30日(金)に総合医科学研究棟1階ラウンジにて開催された。ほかに、准教授・講師が加盟する団体であるが、現会員数は144名からなり、医学部・病院を主体的に牽引していく活動の場として活動されているメンバーである。

室の佐渡洋先生を講師としてお招きし、「産業精神健康トピック」シリーズをテーマとし、一次予防を中心とした講演をいただいた。各人に配られた「かき」の粒を手取りで観察し、香りや味を確かめたりする中で、聴取者一人ひとりが静かに中での問いかけを多くし、体験を深めていただいた。

高度な素材と化学製品開発を促進するJSCRグループの化学研究者(慶應義塾大学の研究者・医師による産学共同研究拠点「JSCR・慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター(J-KiC)」)の4つの取り組みを紹介する。

領域3 マイクロバイオーム
微生物学免疫学教室 本田 賢也(73相当)

領域3はマイクロバイオーム(Microbiome)、感染症や様々な疾患に即ち常在細菌叢が研究テーマである。マイクロバイオーム研究は、次世代の医学の鍵となる。シークエンサーが用いられるようになってきた2014年頃から、急速に研究が進んできた。現在では健康に広く関わっているがん、肥満、自己免疫疾患など、神経系、自律神経系、免疫系、腸胃消化器系、皮膚科、アレルギー、糖尿病、高血圧、がん、心臓病、精神疾患などに影響していると考えられている。その為、世界規模の研究にもかかわらず、病態悪化の原因となる菌種や、逆に病態改善と関係がある菌種、即ち治療に使える細菌種を、実際に培養できない例はまだ少ない。

J-KiCでは、すばらしい研究環境を整えられた。シークエンサーやDNAミクロアレイなど、様々な最新の技術をもち、複雑な常在細菌叢を培養菌種だけでマウスの中で再現することが可能になった。また、機能表現型に紐づけられた常在細菌種を単離培養し、その菌種コンソシアム

のフオートマウスを作成することで、相関をより正確に、よりスピーディーに臨床現場に還元できる研究が行える。J-KiCが世界有数のマイクロバイオーム研究センターとして、知られる日は近いと考える。

平成30年度三四会評議員会開催のお知らせ
会則20条に則り、次のように開催します。
日時：平成30年6月16日(土) 午後3時～5時
場所：2号館11階 大会議室

北里記念式の挙行について
本年は初代本学部長北里榮三郎先生の87周年にあたり、医学部と三四会の共同により下記により北里記念式を執り行うことになりました。
三四会の皆様方のご列席の程をお願い申し上げます。

平成29年度 准教授講師会を開催して 末岡 浩(59回)

准教授・講師会は相互の親睦と援助の組織として親睦活動を行ってきたが平成29年度の年次総会が開催された。当日は、北川院長から最近日進んだ新病院棟の移動と同時に今後の研究の方向性についてお話があった。

例年、日頃なかなか聞く機会のない有意義な話を聴きながら、講演を企画しているが、今回は「ミレニウム」の講演が中心で、講演の最後には、北川院長から最近日進んだ新病院棟の移動と同時に今後の研究の方向性についてお話があった。



講演に聴き入る会員

熱心な講演の後には、東京書籍による料理を食しながらの楽しい懇親の場があった。ふたふた分厚いお菓子の備え付けられた「お菓子交換」は、出陣したいと医療部長、病院長へも挨拶の言葉が飛び出した。

第23回オリンピックピック冬季競技大会(2018/平昌)に帯同して 石田 浩之(66回)

今年2月に行われた第23回オリンピックピック冬季競技大会(2018/平昌)に帯同して、北川院長から最近日進んだ新病院棟の移動と同時に今後の研究の方向性についてお話があった。

今年2月に行われた第23回オリンピックピック冬季競技大会(2018/平昌)に帯同して、北川院長から最近日進んだ新病院棟の移動と同時に今後の研究の方向性についてお話があった。

北川院長からは、最近日進んだ新病院棟の移動と同時に今後の研究の方向性についてお話があった。

スピードスケート女子500mで金メダルを獲得した小平奈緒選手、結城コーチとともに、限られた医療資源や、私自身も未だ答えがでられておりません。



ヒト型ロボット(まほろ)

J-KiC産学連携の取り組み
微生物学免疫学教室 本田 賢也(73相当)

第11回 先輩医師と語る会

本年度は産婦人科・小児外科のダブル山田先生をお迎えしました！
満穂先生の語る「Cracking the egg」とは？
臨床に、研究に、活躍される同期の山田先生の足跡を辿り、先生方と語り合いながら自らの将来も想像してみませんか？
委員一同、皆様のご参加をお待ちしております！



山田 洋平先生(81回) 国立成育医療研究センター・慶應義塾大学医学部 小児外科



山田 満穂先生(81回) 慶應義塾大学医学部 産婦人科

日時：平成30年6月8日(金) 18:00～20:00
講演後に講師の先生方と語り合う懇親会(軽食付)を行います。

会場：臨床研究棟1階ラウンジ(途中出入り自由) 参加費：無料

主催：慶應義塾大学医学部三四会 医師ワーカライフ支援委員会
お問い合わせ先(E-mail): info@sanshikai.jp

平成29年度第6回定例理事会報告

日時：平成30年3月16日(金) 午後7時～
場所：2号館11階 三四会会議室

審議事項
1. 平成30年度予算案につき承認された。
報告事項
1. 三四会百年記念事業は2020年の秋をめどに記念式典を開催予定である他、事業内容については今後議論する。

2. 2017年に三四会産業医委員会が発足し、11月6日に第1回委員会が開催された。その後の活動として、医学部・病院・三四会が連携して、産業界に対する支援を組織的に行う計画(複数の企業が投資するコンソーシアムとして寄附講座を運営し、産業保健のマネジメントを担当する人材を確保する、といった形態)についての議論が報告された。

3. 三四会評議員会は6月16日午後3～5時、2号館11階大会議室にて開催予定。
4. 三四会全国支部長会は10月6日午後6～9時、ホテルオークラにて開催予定。
5. 葛西健WHO西太平洋地域事務局次長(69回生)が同事務局長を目指すにあたり、三四会として協力できる具体的な方法につき提案された。

6. 三四会ホームページがアップデートされ、沿革などが追加された。
7. 医師ワーカライフ支援委員会主催の「先輩医師と語る会」は6月8日に開催予定。

赴任後、多くの教室や諸先輩から多くのご支援を賜り感謝。感謝があり、昨年、人材育成の推進のために研修センターを新設した。初期研修は7年連続でルマツチの栃木県レコードを更新し、今年も慶應から多くの優秀な研修医が赴任した。感謝は4月に内科専門研修施設の新規の申請を終え、佐野野の人員育成と慶應への橋渡しをめざす。また新たに救急処置センターの新設に向けて、DMATを立ち上げ現場の志気は上がっている。「女性専用」の嘱託医制度も新設し産婦人科はその運用が始まった。現在の病院の統制の運用を標準化し、来年度の電子カルテ更新時に業務効率化を進めると、病院はリスタート元年を向かえようとしている。

佐野野生総合病院院長 村上由人(63回)

金沢知来
奇跡の五輪連覇、怪我がおのろけの復活、羽生結愛選手の平昌五輪での勇姿は記憶に残る。そこには、「専門的食生活」を支えられた超絶トレーニングの勝利の方程式があったと聞く。
小生は昨年6月に教室人事で佐野野生総合病院に異動した。伝統ある慶應の関連病院であり、そこには院長の丸山博士が悠長に糖尿病診療を続けた。高齢化率28.5%の佐野野市にどうして入院患者のフレイル対策は喫緊の課題である。不適切な安静と低栄養により、フレイルが進行し、ADLが低下し、嚥下障害をもち、低栄養がさらさら悪化する悪循環が最近注目されている。スポーツ医学の応用として、NST(肩関節鏡視下)により、病棟の包括指示によりハビ患者を対象として「Jハビ」11・30分以内BCA(体重)などの入院関連機能障害、JAD(予防)プロジェクトを開始し、入院による1日の筋肉量は減少し、床上安静0.5%・低栄養で0.2%におよぶ。まさに「筋肉はシネス」である。

赴任後、多くの教室や諸先輩から多くのご支援を賜り感謝。感謝があり、昨年、人材育成の推進のために研修センターを新設した。初期研修は7年連続でルマツチの栃木県レコードを更新し、今年も慶應から多くの優秀な研修医が赴任した。感謝は4月に内科専門研修施設の新規の申請を終え、佐野野の人員育成と慶應への橋渡しをめざす。また新たに救急処置センターの新設に向けて、DMATを立ち上げ現場の志気は上がっている。「女性専用」の嘱託医制度も新設し産婦人科はその運用が始まった。現在の病院の統制の運用を標準化し、来年度の電子カルテ更新時に業務効率化を進めると、病院はリスタート元年を向かえようとしている。